

大学間連携調査（成城-ds Web調査プロジェクト）の実施と進捗について



稲垣佑典^{1) 2)} 前田忠彦^{2) 3)}

- 1) 成城大学
- 2) 社会データ構造化センター
- 3) 統計数理研究所



調査の経緯と4つの目的



- ◆ 成城大学データサイエンス教育研究センターとROIS-DS社会データ構造化センターは2023年7月12日に「研究・教育の 協力に関する覚書(Memorandum of Understanding: MOU)」を締結
 - ➡研究・教育プロジェクトの一環として、競争的資金「成城大学特別研究助成(連携協定)」に応募し採択(※3年間の継続プロジェクト)

4つの研究・教育目的

➤統計・データサイエンス教育利用のための社会調査データ取得

- ・ 関連科目の実習やイベントに用いるデータセットとして利用
- ・ 社会調査に興味関心のある学部生・大学院生を募り、調査項目の考案や調査過程を体験してもらう

➤従来調査(『日本人の国民性調査』)とのモード間比較・Web調査を利用した社会調査方法論の発展的研究

- ・ 調査モード間(「訪問面接調査」と「Web」調査)で、違いを比較(※K票・M票に分割されたいくつかの項目の同時分析が可能)
- ・ 『日本人の国民性調査』(5年に一度実施)のインターバルを埋め、変化が生じるメカニズムの考察材料とする
- ・ Web調査特有の傾向やSatisficingによる不適切回答の発生などに関する研究材料の取得

➤社会調査データのデータライフサイクル・マネジメント研究への貢献

- ・ 科研費交付内定時にはDMP(データマネジメント・プラン:研究データ管理計画書)作成が求められる
- ・ 2次利用にあたって問題点の炙り出しのための資料として活用

➤データ公開・シェアリング用プラットフォームの有効性検証

- ・ 社デではオープンサイエンスのためのデータ公開・シェアリング用プラットフォーム開発中
- ・ 取得した調査データを整備と機能拡充に向けての有効性検証のために使用

調査の概要

1) 日本在住の20～84歳までの男女4000人を国勢調査の人口分布に基づき年齢(10歳刻み)×性別×地域(8地域分類)で割付
※調査時のバッファ分も納品する契約としたため、実質的には6000人規模の計画

2) Web調査会社保有のオンラインパネルによる**公募型Web調査**

3) 実施期間: 2024年10月25日から同月26日(2日間)

4) 有効回収サンプルサイズ: 6,452
※うち327人に短時間回答等の形跡があり、調査会社基準でのカットフラグ立てされる

5) スクリーニング用画面(性別・年齢・居住地域)と本調査画面の2部構成

6) **調査項目(大問)60問**の他、回答時間、回答デバイスなどのパラデータを取得

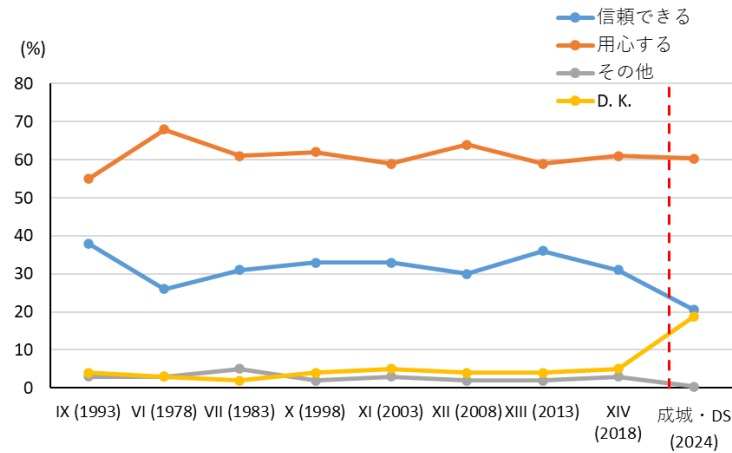
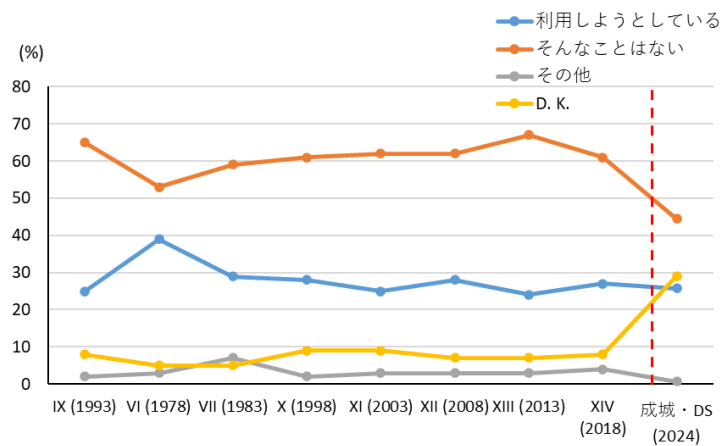
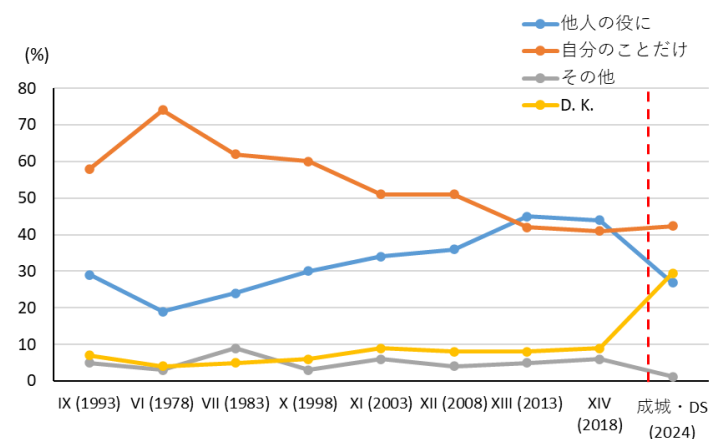
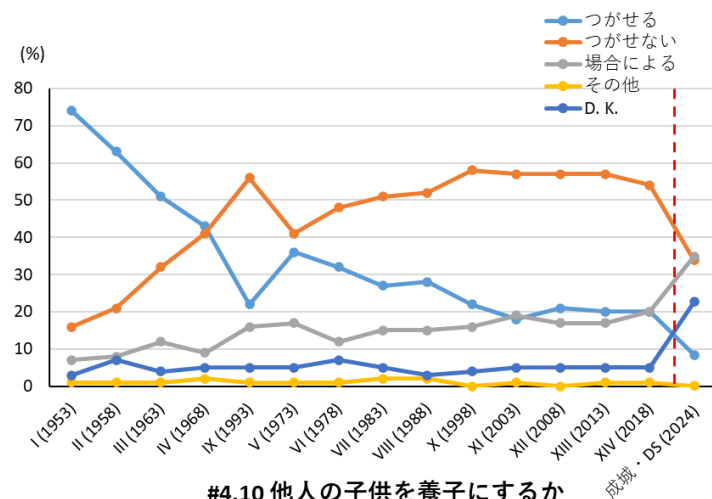
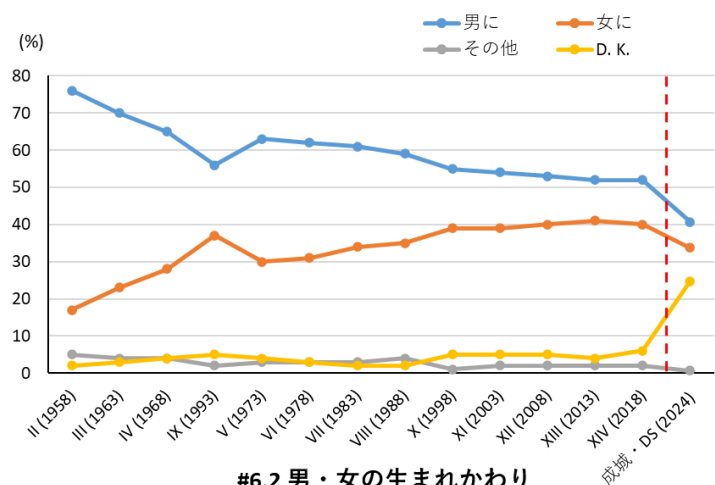
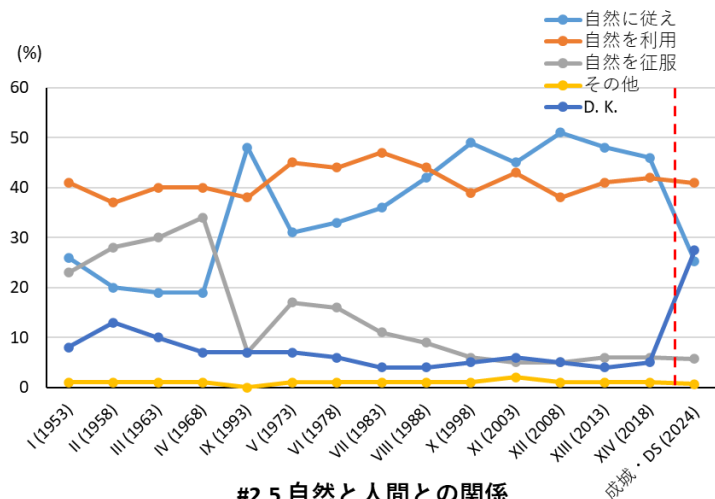
7) その他、不適切回答検知用のDQS(Directed Question. Scale; 回答箇所を指示するタイプの“トラップ設問”)や今回の調査に対して抱いた印象や回答の難易度を問う項目も導入

Q19
ここ1ヶ月の間につぎにあげるものに悩みましたか(かかりましたか)?(それぞれひとつずつ)

	かかったことあり	かかったことなし	その他	わからない・こたえたくない
1 頭痛、偏頭痛(へんずつう)	1○ 2○ 3○ 4○			
2 腰の痛み	1○ 2○ 3○ 4○			
3 いろいろ	1○ 2○ 3○ 4○			
4 ゆうつになる、気がふさぐ	1○ 2○ 3○ 4○			
5 不眠症	1○ 2○ 3○ 4○			
6 目の負担、眼精疲労	1○ 2○ 3○ 4○			
7 肩こり、首の痛み	1○ 2○ 3○ 4○			
8 無気力感	1○ 2○ 3○ 4○			
9 過度のストレス	1○ 2○ 3○ 4○			
10 「その他」を選びあなたの悩みごとを記入してください(回答必須)	1○ 2○ 3○ 4○			

1～9以外の体の不調について「その他」を選ばせ、自由回答(ない場合は「ない」と記述)してもらう項目(吉野前センター長考案)

国民性調査の主要項目との比較結果



- 『日本人の国民性調査』では明示的に設けられていなかった「DK(わからない)」、さらに「場合による」の割合が大きく変化したし、**態度を明確に表明しない傾向(「中心化傾向」)**が生じている
- ➡ 属性別の分析で回答割合に変化が生じていないか要検討
 - ➡ 次回調査以降の回答選択肢の構成を考慮すべき?